

# SSKO

栃木ダルク

ニュースレター 第83号(2010, 3, 10)

# Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center  
**DARC**

## 那珂川 CF(コミュニティーファーム)開設

栃木ダルク 代表 栗坪千明

今回は4月1日オープンとなる那珂川 CF（コミュニティーファーム）について書きます。

栃木ダルクがかねてより作りたいと思っていた農業をプログラムの中心とした施設を開設する運びとなりました。現在は宿泊施設だけ確保し、事務所とミーティングや他の特別カリキュラムを行うスペースを作っているところです。

那珂川町で農業を営んでおられる星農園の星一明さんの協力を実現する事となりました。昨年から週に2度のペースで責任者となる柴田と夢川を中心に4-5名のメンバーで農業体験を重ねて来ました。何度か通っている間に、効果が現れてきました。特にコミュニケーションがうまく行かないメンバーに劇的な変化が現れ、感情表現が良くなりました。明るくなったというのがありますが、自分が今どのように感じ、どうしたいのかを口に出して言えるようになってきたのです。これはアルコールや薬物によって感情表現の乏しくなったメンバーには大きな一歩と言えます。

約半年間那珂川町に通ってこのような効果を確認し、この度の施設開設につながりました。

すでに星さんのご好意で米をつくる田んぼと野菜を作る畑、それから農閑期に出来る作業として腐葉土作りなども用意されています。農業には素人である私たちにとって星さんはとても心強いというよりなくてはならない存在です。特にお父さんには栃木ダルクのメンバーを





快く受け入れてくれて、優しく指導してくださって、とても感謝しています。

また今年は栃木ダルクにとって大きな一歩となる年です。栃木県薬務課の委託事業である再乱用防止教育事業も参加者は12名となり、初年としてはまずまずのスタートを切っています。

乱用防止パトロール事業は、メンバーたちもがんばってくれて毎回沢山のの人たちへの啓発が出来ています。

またカウンセラー養成講座も、栃原を中心として研修会を無事終え、冊子の編集作業に入っています。関心の高さを感じる事が出来ました。

施設事業においても那須TCの新施設購入も実現し、施設長の長谷川を中心にとっても良い環境で回復カリキュラムを実施出来るようになりました。引っ越してすぐに井戸水が枯れるという問題が起きたのですが、とちぎ家族会（NPO 法人アディクションサポートセンターとちぎ）のご協力でなんとかクリア出来そうです。

このように地域の中で私たちの活動が認められつつあるのも、これまで支援してくださった方々や、現在もご協力くださっている方々なくしてはあり得なかった事でしょう。

社会に必要でされ続けることには、私たちが努力をしていかなければならないと思っております。

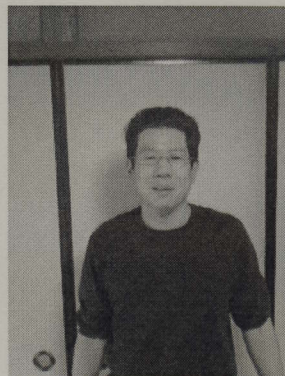
今後も栃木ダルクは様々な事業をまだ苦しんでいる薬物依存者に向け展開して参りますので、ますます皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。





### 初体験

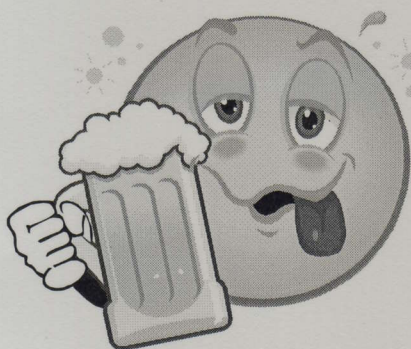
皆様、改めましてこんにちは、薬物依存症のクロです。私が今までの過去の経験を基にこの先の人生に必要なとすべく、回復プログラムへと繋がるまでと現在までの体験談を書かせて貰います。私のアクション問題（薬物の初体験）は遡ること約20数年前、義務教育真只中の時でした。学業をさて置いて好奇心旺盛でとてもいい加減な人間でした。当時は、365日、24時間、年中無休体制で、手軽に購入可能な「酒」でこれまでの人生を棒に振って来ました。自動販売機で友達と購入し使用したのが最初でした。気の弱い私にとって、誰とも接することなく自動販売機での購入は私には、とても有難い存在でした。



当時は、未成年者と言う弱みと共に「気の弱さ」が手伝ってか、周りや国道を走る車を気にしながらもコソコソ、恐る恐ると愛車（学校指定通学用自転車）に股がり、愛車のリヤカバーには生徒番号が印刷されたシールを貼り、ジャージ姿（体育着）で、いざ自動販売機の有る酒屋へと向かいました。その時の私はシラフだが感覚的に問題が在ったと思います。直ぐに逃避出来るようにと、現場（酒屋）から離れた場所に愛車を置き、心拍数をドキドキバクバクさせながら、今にも口から心臓が飛び出しそうな程の緊張感と言いつきを考えながら体育着のまま、自動販売機の前に立ち現金投入口へ現金を入れようとしてしました。その瞬間に通る掛かる車両のクラクションが鳴り響き「ピクッ」と手を差し戻し、その場から逃げ出そうかとオドオドとすごく挙動不審な少年でした。一旦その場を離れ、作戦を練り、再びとても小さな勇気を振り絞り、薬物の購入を試み、そして成功しました。即座にジャージを一枚脱いで薬物を包み隠し愛車のカゴへ、猛ダッシュで「ハア、ハア、ハア、」とマイホームの自室へ持ち込み、台所からコップと栓抜きを持ち帰り、「ハア、ハア、ハア・・・」





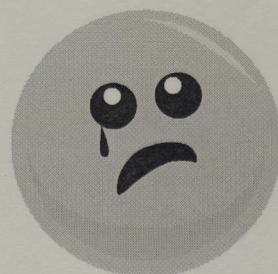


と息を切らし好奇心と欲求とでいっぱいでした。そして、まずはビールの蓋をシュポントと抜くと床一面が、ビールと泡だらけになってしまい、更に息を慌てて「ハア、ハア、ハア、ハア、ハア、」と「ばれたらおこられちゃうだろーバカヤロー」と心で叫びながら額の汗よりティッシュで床のビールを拭き取りそして、いよいよコップへと、再び「ハ

ア、ハア、ハア」「トクトクトク」「ハア、ハア、」とコップからビールをこぼしながら注ぎ、再び「ハア、ハア、ハア、」と汗を拭いながらコップを見つめ不安と焦りと挑戦との中、又再び「ハア、ハア、ハア、」と酒をこぼしながら一気飲み。結果はすごく不味く苦く感じ、そして、ロレツが回らなくなり別世界に行った気分でした。そして、その瞬間から私の精神年齢のリズムは止まり、薬物依存症者としての生活が始まり、同時にその時の精神年齢のまま生きる事となりました。当時は、好奇心旺盛で、楽しく生きる、その時さえ善ければ、自己行動に責任が懸かる事も理解せず、親の傘の下で甘い汁を啜りながら生きてきました。過去四年前までの私は薬物が恋人♡でした。

支えで、自己時計の中、わがままに生き、そんな環境で生きて来ました。その結果、居場所を失い、薬物依存の治療、新しい生き方、人生の再スタートをする為に、仕方無しに強制的に嫌々、栃木ダルクに入寮しました。そして家族以外との共同生活。精神面、特に攻撃的態度者に弱い私にとっては最悪、不運の連続でした。何度となく神、仏、仲間その他のものを恨んだ事か本当に疲れきっていました。

当初、回復施設とは名ばかり、糞の集まり集団だと。就業先でもイジメラレ、今回入寮中にもイジメラレ、家族に対しての裏切り、自分への薬物使用での慢性的な自殺的行為等、何もがどうしても良かったと本気で思いながらのあらゆる囚われで放棄人生でした。だが、それに対しての何の抵抗も出来ない、ただ無抵抗なだけの弱い自分に気付かされました。常に孤独、この世に





生きる存在疑問さえ何う過去と現在。

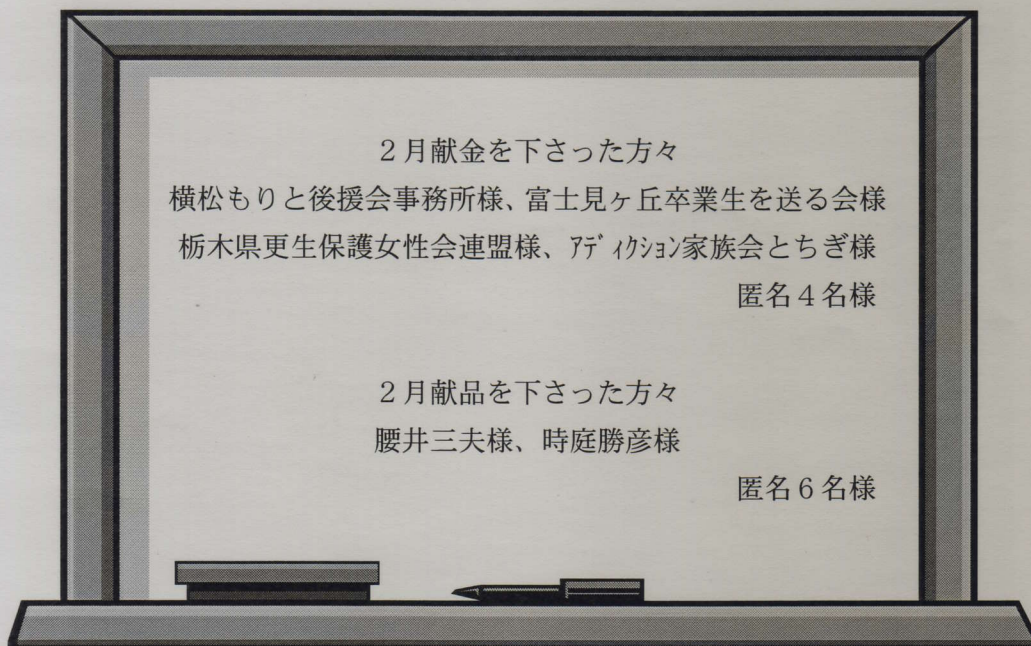
本当に精神的に辛かった事を覚えて  
います。自分を棚上げ、視線は周り、我  
は棚上げ、何処にも居場所的な物が無  
く、常に現実逃避のオンパレード。奈  
落の底に向かって、ひたすらにマイペ  
ースで後悔を逃げる事を目標に生き、  
何だか寂しい生き様で、苦い思い出  
だらけの人生でした。そんな、孤独な生  
き方、辛い生活の中を通し、栃木ダル



クでのプログラム成果で、生まれて初めて自己を見つめられるように少しずつだ  
が成って来ました。様々な月日が流れ、一定の落ち着きと心の平安を取り戻して  
いた時、プログラムで毎週火曜、水曜と那珂川町ファーム研修へ行った初日の火曜  
日に母方の父の病死を知らされました。

一瞬、目は点になり動揺し状況を受け容れる事に戸惑いました。

慰めてくれる責任者に助けられ状況を受け容れられました。人生は辛く大変だ  
と思う。でも負けずに生きて行く。埋め合わせと幸福の為に。





3月予定

- 3日 薬物再乱用防止教育 県南会場
- 4日 厚生労働省来所
- 5日 多摩精神保健福祉センター訪問
- 6日 薬物再乱用防止教育 県央会場
- 8日 利用者家族関係再構築
- 9日 アルコール関連問題研究会
- 10日 薬物再乱用防止教育 県南会場  
那須 TC 早稲田大学法学学術院来所
- 11日 宇都宮保護観察所引受人講習 講演  
宇都宮 OP 早稲田大学法学学術院来所
- 12日 栃木県薬物関連問題連絡協議会 講演  
薬物再乱用防止教育 県北会場  
研究成果報告会
- 13日 薬物再乱用防止教育 県央会場  
北関東薬物関連問題研究会
- 18日 AKK
- 19日 栃木県薬物依存症対策推進委員会
- 20日 再乱用防止教育 県央会場
- 26日 再乱用防止教育 県北会場
- 28日 アディクションサポートセンターとちぎ家族会  
鹿島ダルクフォーラム
- 31日 再乱用防止教育 県南会場

発行所

郵便番号一五七—〇〇七三 東京都世田谷区砧六—二六—二二  
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

編集

NPO 栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com> Eメール: nesm@t-darc.com

定価 1000円